



伝え切れていなかったの

オーセンティックで楽しい学校

朝から夕方まで、力いっぱい考えて、力いっぱい笑って、力いっぱい汗を流して、家へ帰ったらおなかいっぱい夕食を食べて、家族に学校の話をお話して、ぐっすり眠る。

そんな6年間で受験もちゃんと乗り越えて、不確定な未来をしっかりと生き抜ける力を身に付けます。

土曜日の第5回説明会で、上のスライドにあることだけは、しっかりと小学生の皆さんに伝えたいと思っていましたし、それなりに伝えることはできたかなと思っていましたが、日曜一日振り返って、やっぱり、伝え切れていなかったと思いました。

未来志向で学校を創っていくことは言うまでもないのですが、そのことに、私の意識が偏りすぎていたようでした。

要は、子どもが、子どもらしく楽しく、元気一杯に過ごすことが学校の土台なんです。

そのことを、一番伝えてくれる詩を出すことにしました。

今の学校から

なくすべきこと。

なくしてはならないこと。

まきたしんじさんが伝えてくださっていることが、絶対になくしてはならないことですね。



教室はまちがうところだ

蒔田 晋治

教室はまちがうところだ

みんなどしどし手を上げて

まちがった意見を 言おうじゃないか

まちがった答えを 言おうじゃないか

まちがうことをおそれちゃいけない

まちがったものをワラっちゃいけない

まちがった意見を まちがった答えを

あおじゃないか こうじゃないかと

みんなで出しあい 言い合うなかでだ

ほんののものを見つけていくのだ

そうしてみんなで伸びていくのだ

いつも正しくまちがいのない

答えをしなくちゃならんと思つて

そういうことだと思つているから

まちがうことがこわくてこわくて

手も上げないで小さくなって

黙りこくって時間がすぎる

しかたがないから先生だけが

勝手にしゃべって生徒はうわのそら

それじゃあちつとも伸びてはいけない

神様でさえまちがう世の中

ましてこれから人間になろうと

している僕らがまちがうって

なにがおかしいあたりまえじゃないか

うつむきうつむき

そうっと上げた手 はじめて上げた手

先生がさした

どきりと胸が大きく鳴って

どきどきと体が燃えて

立ったとたんに忘れてしまった

なんだかぼそぼそしゃべったけれども

なにを言ったかちんぷんかんぷん

私はこどりと座ってしまった

体がすうっと涼しくなって

ああ言やあよかったこう言やあよかった

あとでいいこと浮かんでくるのに

それでいいのだ いくどもいくども

おんなじことをくりかえすうちに

それからだんだんどきりがやんで

言いたいことが言えてくるのだ

はじめからうまいこと

言えるはずないんだ

はじめから答えが当たるはずないんだ

なんどもなんども言ってるうちに

まちがううちに

言いたいことの半分くらいは

どうやらこうやら言えてくるのだ

そうしてたまには答えも当たる

まちがいだらけの僕らの教室

おそれちゃいけないワラっちゃいけない

安心して手を上げる

安心してまちがえや

まちがうってワラったり

ばかにしたりおこったり

そんなものはおりやあせん

まちがうって誰かがよ

なおしてくれるし教えてくれる

困ったときには先生が

ない知恵しぼって教えるで

そんな教室作ろうやあ

おまえへんだと言われたって

あんたちがうと言われたって

そう思うだからしょうがない

だれかがかりにもワラったら

まちがうことがなぜわるい

まちがうってことわかればよ

人が言おうが言うまいが

おらあ自分であらためる

わからなけりやあそのかわり

誰が言おうとこずこうと

おらあ根性曲げねえだ

そんな教室作ろうやあ